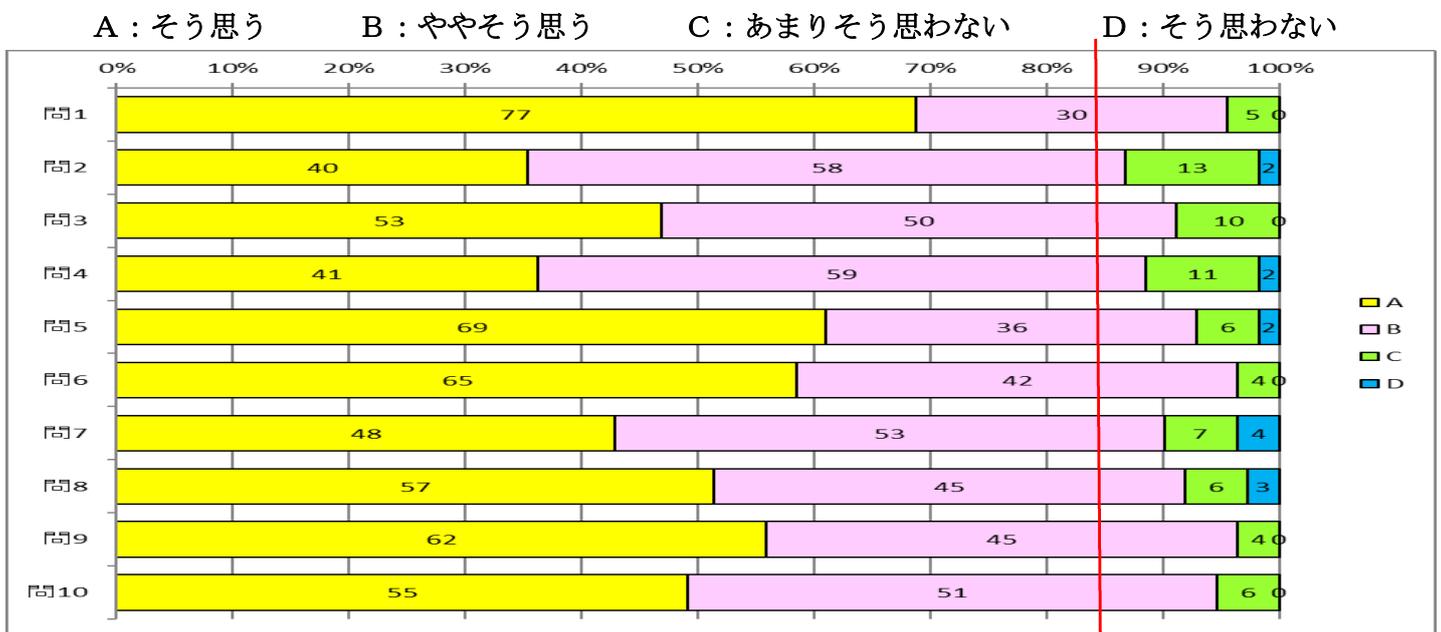


《保護者への設問・結果》

- 問1 お子さんは、「明るく、心豊かな子」に育っていると思われませんか。
 問2 お子さんは、「自ら学び、よく考える子」に育っていると思われませんか。
 問3 お子さんは、「健康で主体的に取り組む子」に育っていると思われませんか。
 問4 お子さんは、「あいさつのできる子」に育っていると思われませんか。
 問5 お子さんは、毎日喜んで登校していると思われませんか。
 問6 学校（学級）の教育方針や子どもの様子は、学校・学級日よりや参観日等で伝わっていますか。
 問7 学校は、子どものことについて気軽に相談できると思われませんか。
 問8 学校は、いじめや不登校のない楽しい学級づくりに努めていると思われませんか。
 問9 学校は、楽しくわかる授業づくりに努めていると思われませんか。
 問10 学校は、安全で快適な教育環境が整っていると思われませんか。

□ 学校に望む（期待する）ことはなんですか。（3つまで選択）

- ①学力向上の推進 ②心の教育や人権教育充実 ③体力向上の推進 ④学校行事充実 ⑤体験活動充実
 ⑥社会ルールやきまりを守る指導 ⑦教職員の資質・指導力の向上 ⑧特別支援教育の充実
 ⑨防災・安全対策の充実 ⑩開かれた学校づくり ⑪施設・設備の充実 ⑫その他



【学校に望む（期待する）こと】

※ 3つまで選択 上位の5項目を記載

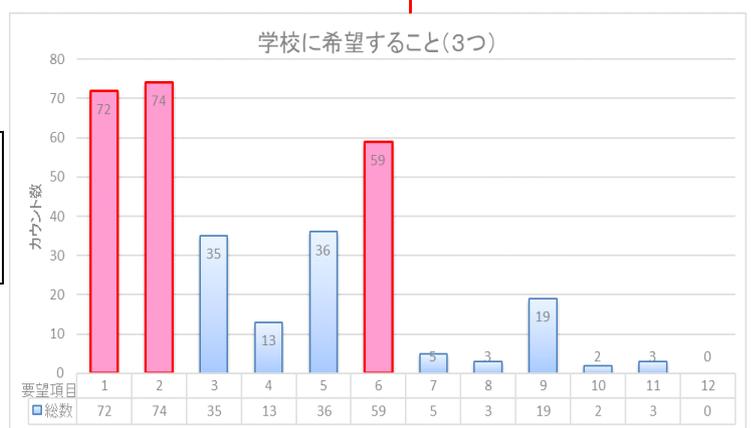
1	②心の教育や人権教育の充実	67.9%
2	①学力向上の推進	66.1%
3	⑥社会ルールやきまりを守る指導	54.1%
4	⑤体験活動の充実	33.0%
5	③体力向上の推進	32.1%

【保護者のアンケート 考察】

肯定的評価（そう思う・ややそう思うを合計した割合）が、全体で92.4%であり、10項目中すべてが85%以上であった。これらから全体的には概ね達成と思われる評価が得られた。また90%以上の肯定的な項目が10項目中8項目であり、「自ら学ぶ」「あいさつ」の2項目が90%に達しなかった。（R2年度は9項目で90%以上。「楽しい学級づくり」1項目が届かなかった。）「あいさつ」に関しては児童自らの活動として、児童会が朝のあいさつ運動や昼の放送で呼びかけを行っている。一方、「気軽に相談」では約10%が否定的な評価であり、少ない割合とはいえ「相談できない」と感じているのは課題と受け止める。また、各設問でD「そう思わない」と回答しているのは5項目である。少数ではあるが学校は深刻に受け止めなくてはならない。特に、設問8「いじめ、不登校のない学級づくり」では、肯定的な評価100%を目指さねばならない。

学校に要望する項目では、昨年と上位3つは同じ項目だが、2, 3位が入れ替わった。心の教育、学力、社会規範の教育を望んでいる。コロナ禍で体験活動が削減されていることも反映してか、4位（体験活動）と5位（体力向上）も入れ替わっている。

GIGA スクールにより、新しいタブレットと電子黒板が導入された。ぜひ2学期以降は、ICT 機器を活用した授業を保護者のみなさんにお見せできるように、全職員で研修を重ね、授業力向上を目指していきたい。



【児童のアンケート設問・結果】

問1 明るく心豊かな子

①友達にやさしくできましたか。 ②友達をいじめたり、悪口などを言ったりしないで仲よく過ごせましたか。

問2 自ら学び、よく考える子

①自分から進んで勉強や宿題ができましたか。 ②自分でよく考え、勉強や生活ができましたか。
③毎日、家庭学習に取り組みましたか。(目安は、学年×10分)

問3 健康で主体的に取り組む子

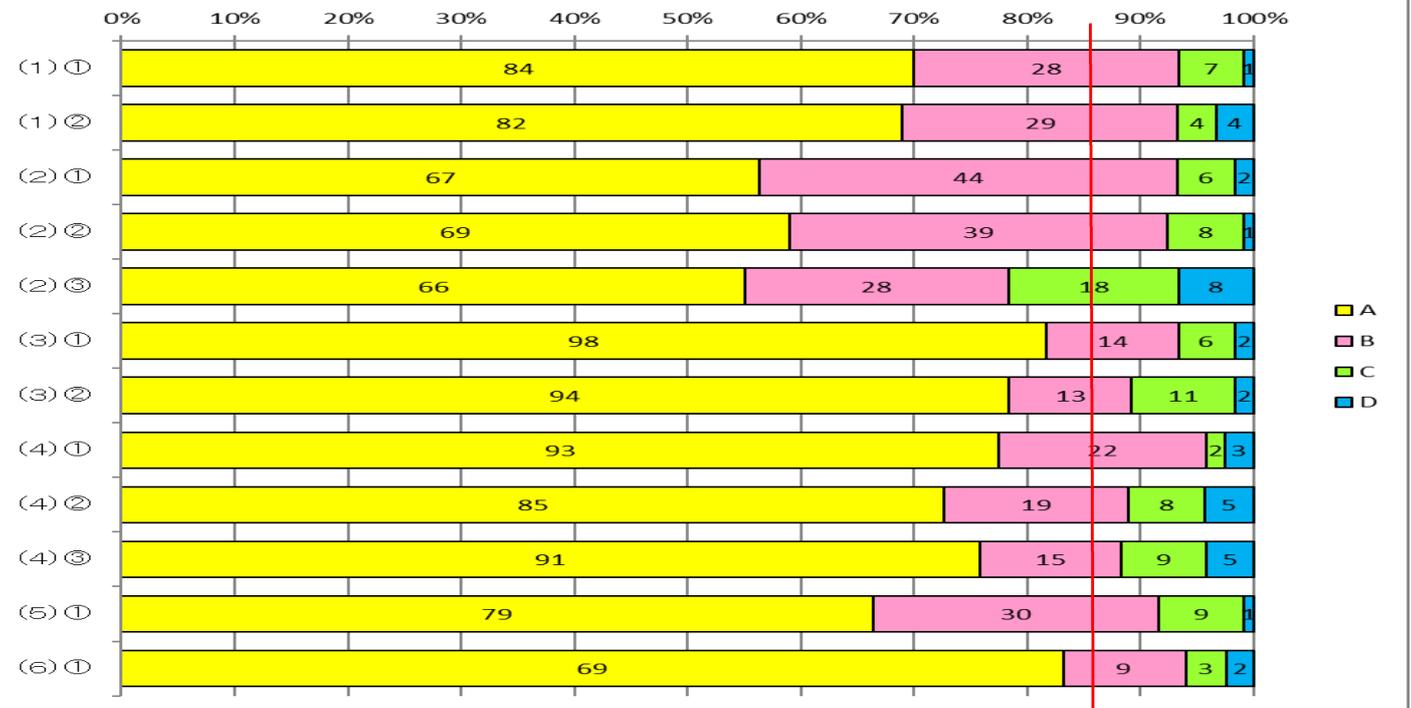
①体育の授業では、進んで運動ができましたか。 ②休み時間や放課後の部活でたくさん運動ができましたか。

問4 あいさつのできる子

①先生方 ②地域の方 ③おうちの人

問5 毎日楽しく登校できましたか。

問6 先生方は、あなたが困ったときに相談にのってくれましたか。



A : よくできた

B : 多少できた

C : あまりできなかった

D : できなかった

【児童のアンケート 考察】

肯定的な評価(「よくできた」「多少できた」を合計した割合)が、平均して91.1%であった。設問全体を通じてよく達成しているという評価が得られた。

肯定的な評価が85%以上であった項目が12項目中11項目あった。特に「友達と仲良く」「体育の授業で、進んで運動」「毎日楽しく登校」の3項目は肯定的な評価は95%以上と特に高かった。一方で、「毎日の家庭学習」は肯定的な評価が76%で(昨年度は77%)で12項目中、最も低かった。家庭学習が定着している児童とそうでない児童の二極化が進んでいることが家庭学習ノートの状況で浮かび上がっている。今後、定着できるように宿題の出し方の工夫なども含めて課題としていく。

全体的な考察

目指す児童像「明るく心豊かな子」「自ら学び、よく考える子」「健康で主体的に取り組む子」の観点から

(1)「明るく心豊かな子」については、保護者の95.5%が肯定的な評価をしている。児童は①「友だちに優しく」②「いじめたり、悪口は言わない」はともに93.3%である。しかし、②は昨年度と比べ、-3.4ポイントである。『学校に望むこと』でも「心や人権教育の充実」が最も回答が多い。この期待に応えていけるよう、体験学習や道徳教育を要に充実を図っていかねばならない。

(2)「自ら学び、よく考える子」については、保護者の肯定的評価86.7%であった。児童は家庭学習を除けば、「自ら進んで勉強」が93.3%、「自分でよく考え勉強」92.3%とともに昨年度より約3ポイント上昇している。肯定的な評価に保護者と児童で差が見られるが、これらは家庭学習の取組状況の影響かと思われる。また、コロナ禍で授業参観などが少なくなり、保護者が学校での学習状況を把握する機会が減少したことも要因かもしれない。『学校に望むこと』でも「学力向上」が2番目に回答が多かった。家庭学習の定着とともに、ICT機器(電子黒板)を活用して自ら考え、進んで学習できる場面を設定することを全職員で取り組んでいく。

(3)「健康で主体的に取り組む子」については、保護者は肯定的な評価が91.2%であった。児童は①「体育の授業で運動」93.4%、②「休み時間や部活で運動」89.2%であった。しかし、昨年度比で①は-3.4ポイント、②は-4.2ポイントと減少傾向にある。グラウンドの修復工事やコロナ禍での運動制限による影響と考えられる。『学校に望むこと』では「体力向上の推進」は5番目である。体育科の授業や部活動のほかに、新しく入った遊具や鉄棒やなわとびなどの遊びを通して、そしてマラソン大会などの行事を通して、体を動かすことが楽しいと感じるようにしていきたい。

